

## タカラバイオ株式会社 平成27年3月期決算説明会 質疑応答内容

平成26年11月11日（火）

野村證券日本橋本社7F 講堂（東京都中央区）

回答者 代表取締役社長 仲尾 功一、専務取締役 松崎 修一郎

### 【バイオ産業支援について】

（質問）

米国、中国など海外での研究試薬事業が好調な理由は？

（回答）

米国においては、クロンテック社のNGS（次世代シーケンサー）用の試料調製用の試薬・キットを中心に売上が好調です。米国では、1細胞（超微量試料）のシーケンス解析などを行う研究が活発で、クロンテック社製品はこの分野で強いようです。中国では、試薬類が全般に好調です。基礎研究から診断等の応用分野へ、研究の領域が拡大しつつあるようです。この他に、欧州においては企業向けの酵素のバルク販売(原材料供給)を中心に順調です。また、販売方式を英・独においては代理店を通さずにダイレクトセールス方式に切り替えたのも好調の一因と見ています。

（質問）

中国の研究試薬事業について、成長性、利益率について説明して下さい。

（回答）

数年前までは年間120%以上の成長率でしたか、ここに来てスローダウンして110%台になっています。しかし、依然としてその他の地域と比較して高い成長率であることは事実です。利益率ですが、製品価格については、日本やその他の地域と比較して低めの設定ですが、中国内で生産して販売するため、中間コストが低く、利益率は高くなっています。

（質問）

iPS細胞関連の事業買収や提携が続いたようだが、今後はどのように考えているのか。

（回答）

iPS細胞の作製・維持、分化誘導に係る基本的な技術については、一連の事業買収や提携等を通じて入手できつつあると考えています。今後はこれらの技術の製品化、サービス化を急ぐとともに、心毒性評価のような創薬分野でのアプリケーション開発、ゲノム編集など関連技術との融合にも力を入れていきたいと考えています。その過程で必要な提携や買収があれば、個別に検討してまいります。

(質問)

iPS 細胞や幹細胞研究関連の売上実績や成長率はどの程度ですか？

(回答)

直接的な数値を公表はしていませんが、CDMO 事業の製品・サービス売上の内数とお考えください。成長率についても CDMO 事業の成長率に類似しています。

(質問)

買収した Collectis AB 社と StemCells, Inc.社の試薬事業の強みを教えてください。

(回答)

Collectis AB 社は ES 細胞、iPS 細胞の取扱いや、幹細胞からの心筋細胞、膵臓細胞、肝臓細胞への分化誘導技術を保有しており、製薬企業との共同研究などの実績があります。また、関連する製品やサービスも保有しています。StemCells, Inc.社は神経幹細胞の取扱いに特徴があります。2 社ともに製品販売網が弱く、グローバル展開ができていませんでしたが、今後は当社グループの販売網を活かして拡販するとともに、製品開発においてもグループで協力してまいりたいと考えています。

(質問)

幾つか幹細胞関連の事業買収を行っているが、医薬品としての展開を想定していますか、あるいは、研究試薬としての展開を想定していますか？

(回答)

いずれも研究試薬、創薬支援分野での製品・サービスとしての展開を考えています。幹細胞医薬品の開発を行うことは今のところ計画していません。

【遺伝子医療事業について】

(質問)

HF10 の第Ⅱ相臨床試験でイピリムマブとの併用試験としているが、この理由を説明下さい。

(回答)

腫瘍溶解性ウイルスは医薬品としては新しいカテゴリーなので、承認が得やすい試験法を第一の選択肢として考えています。併用については、作用メカニズムが異なり治療効果が高まること、動物実験で腫瘍免疫増強による効果が期待できる結果が示唆されていた点を加味しました。

(質問)

HF10 は、改正薬事法の「再生医療等製品」に該当するものか？また、今年度開始を予定している国内治験の対象疾患について教えて欲しい。

(回答)

HF10 については、今年度中に国内治験を開始する予定で、計画を作成しつつ、当局に相談を開始しています。「再生医療等製品」としての認定については、この当局との相談のなかで確認できるだろうと考えています。また、国内治験での疾患摘要については固形がんを中心に考えていますが、最終確定はしていません。

(質問)

CD19CAR について、治験実施の見込、対象疾患、競合の状況などを含め、取組を教えてください。

(回答)

CD19CAR については、国内臨床研究を自治医科大学と共同で行っています。対象疾患としては非ホジキンリンパ腫を対象としています。非ホジキンリンパ腫を対象としているのは、海外で治療実績があり、希少疾患であるため将来治験を行う際に手続き等がスムーズに進むと見込んでいるからです。治験の実施については、現在まで、機関決定していません。一部の海外製薬企業が CD19CAR について、急性リンパ性白血病を対象に開発を行っていることは承知しています。

#### 【医食品バイオ事業について】

(質問)

来年度から新しく食品の機能性表示が解禁となると言われているが、タカラバイオでの準備状況は？

(回答)

「あきらか食品」については早い時期に対応が可能だと考えていますが、サプリメントについては時間がかかるのではないのでしょうか。当社では機能性の食品素材についてエビデンス取得を進めており、この情報については積極的にアピールしていきたいと考えています。

(質問)

キノコ事業の今後の方針・施策について

(回答)

前期より、より付加価値の高いホンシメジに重点を置く施策をとっています。具体的には、瑞穂農林で行っていたハタケシメジの生産量を減らして、ホンシメジを増産します。また、より販売単価が高く見込める業務系顧客の開拓を行っているところです。これらの施策により早期の収支均衡を目指すのが、当面の方針です。

以上